

2021年度男女共同参画センターはあもにい
第1回運営審議会 議事録

1. 2021年7月14日(水) 10:00~12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
 - ◆ 運営審議委員 (10名 五十音順)
井手志保委員 小野由起子委員 北村眞理子委員 坂口京子委員
阪本恵子委員 那須円委員 広渡純子委員 本田恵介委員
宮村飛伸委員 八幡彩子委員
 - ◆ オブザーバー
熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課 課長 山田紀枝
 - ◆ 事務局
 - ・代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社 代表取締役)
太田勇雄(九州総合サービス株式会社 事業推進本部長)
 - ・構成企業B 松内隆典(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
河野正治(熊本産業文化振興株式会社 総務部長)
 - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミューズプランニング 代表取締役)
吉田稀世(有限会社ミューズプランニング 取締役)
館長:坂本ミオ、副館長(兼 総務管理課課長):堀井康希
舞台事業課・維持管理課:課長 安藤陽介
企画事業課:課長 伊井純子、係長 内田美香、山口美和、榊育代
総務管理課:主任 大久保章
4. 会次第及び議事内容
 - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (2) 館長あいさつ(館長 坂本ミオ)
 - (3) 審議会委員および出席者紹介
 - (4) 審議
 - 議題1 はあもにい管理運営状況について 会館利用状況報告
 - 議題2 令和2年度実施事業報告
 - 議題3 令和3年度事業方針、事業計画について

5. 特記事項

2021年度より小野由起子委員、北村真理子委員、本田恵介委員が新たに就任。議事録の署名に関しては、宮村委員、井手委員が推薦され、審議会承認となった。

6. 議事録

● 議題1 質疑応答・審議

(坂口委員)

利用者アンケートの中で駐車場担当の方はいつも感じがいい、駐車場の方の対応が良いとある。最初に出会う場所なので、とても素敵なことだと思う。コロナ禍において色々な工夫をしながら運営をされていることがわかった。今後のことについても共に考えていければと思う。

(本田委員)

昨年度熊本県立劇場は改修のため10月下旬から3月19日まで約5カ月間休館であったが、運営していた期間は全国公立文化施設協会の示したガイドラインに則った感染対策や国や県の収容率の制限などの対策を行った。利用に関しては、はあもにいと同様、例年と比べるとかなり落ち込んだ。まずは感染を発生させない、広げないことを第一に運営をした。全国的には自治体から会館への補填の状況はさまざまであった。はあもにいは熊本市から補填があり、運用に制約があっても乗り切られているようだ。雇用について、特に非正規だった場合は休館中どうだったのか。清掃や警備などのスタッフは休館に伴ってカットとなるのはやむを得ないが、休館中に休んでもらうなど、対応があったのか気になった。

(八幡委員)

資料P8～10 新型コロナウイルス対策の実施状況をまとめてある。以前に比べ感染対策等に職員の手間もかかっているように思う。市の補填もあったようだが、その辺りの対応はどうだったのかも教えていただきたい。

(事務局 坂本)

通常運営時に比べ、人手や経費の掛かり方が平均的ではなかった。人員を要する場面や業務もあればそうでない面もあり、おしなべてどうだったかという判断になると思う。初めて臨時休館した際には、駐車場、清掃のスタッフの労務管理をどうするのかを最初に検討した。清掃は感染症対策で必要な役割もあり、駐車場は状況に応じて出勤という対応で乗り切った。休館が明けてからは、定期換気のため1時間おきに職員が各部屋に行って窓を開け、また5分後閉めることにした。これは非常に人手を要し、また神経を使ったが、もともといたスタッフをきちんと動かすことで乗り切れたのではないかと思う。

(八幡委員)

さまざまな工夫、努力をしてコロナ禍を乗り切っておられるようだ。幼児室の利用が非常

に減少している。この分野に詳しい北村委員から何かありませんか。

(北村委員)

黒髪校区青少協の北村です。近隣の認定こども園に勤務しており、これまで保護者対象の教育講座をこちらの貸室を利用し行ってきた。コロナ禍になり、昨年、今年度と一切講座を行っていないので、託児を利用する機会はここ1~2年はなかったと思う。資料のアンケートを見ると、利用者が40代~70代がほぼ50%以上を占めている。私たちもそうだったが、小さなお子様を持つ方や高齢者は感染への不安が先にたち、来館を控えている人もいないか。はあもにいが取り組んでいる感染防止対策をさまざまな場面で発信し、可視化できれば、以前通りにはならないとしても、少しずつ利用は戻ってくるのではないかと思う。コロナの状況が落ち着いてきたら、幼稚園や保育園でも会館を利用させていただき、顔の見える連携ができることを望んでいる。

(本田委員)

昨年度、第2回書面審議の議事録を拝見し、サーマルカメラは購入せず、はあもにいフェスタ等で必要に応じレンタルしたとあるが、その後購入はしたのか？

(事務局 堀井)

サーマルカメラはまだ購入していない。これまでは予算などが先行き不透明な状況であったため導入していないが、感染対策に必要な経費については検討を続けていきたい。

(本田委員)

サーマルカメラなど感染対策の備品については国の助成を受けることができる。市に50%負担いただければ、残りは国の予算で導入できるので検討いただきたい。

(八幡委員)

ぜひ検討いただければと思う。職員1名の感染に関する報告があったが、感染するのはやむを得ない。大事なのは感染をいかに最小限に食い止めるか、感染拡大防止に努めるかだろう。今回適切に対応し、感染を最小限に食い止めていただいたと感じた。

●議題2、3 質疑応答・審議

(宮村委員)

キャンセル待ちになるほど定員が集まっている講座がある一方、メンズカレッジに人が集まらなると聞いている。これまでメンズカレッジは、企業の人事総務向けに業務の一環の研修としての受講を勧められていたが、今年度はウィメンズカレッジと合同になって土曜日開催になり、総務課などは休みが多く対象から外れてくると思う。今後は発信力、影響力、意欲のある男性を育成することにシフトするのが良いかと思う。男性も自己投資に興味がある方を対象にしたほうが人は集まるのではないか。過去のウィメンズカレッジを見てみると、魅力的な講座が多い。服の着こなし方など自分を高める講座が男性向けには少ないので、そ

ういった講座もあっていいのではないのか。参加費も無料となっているが、自己投資につながるような講座であれば参加費を払ってもいい。そうすることでメンズカレッジも人気が出てくるのではないか。また高校生の子どもがいるが、学生はラジオを聞く機会があまりない。学生に人気のあるインスタグラムなどで告知してもらおうともっと若い層に広がっていくのではないか。

(井手委員)

昨年12月、起業・就業支援、キャリアアップ支援事業の一つ、日商簿記講座を自身の事業のために受講した。コロナ禍があったのでチャレンジしようと思えた。参加者も多く、今求められている講座なのではないかと感じた。講座を受講したことで、勉強が楽しいと思える自分に変わり、それからの再チャレンジに繋がった。学べる場所があると気付くきっかけになるかと思うので、ぜひ今後も簿記講座の実施を検討してほしい。

(坂口委員)

「学ぶことは楽しい」というのが広まるのはよいこと。ウィメンズカレッジ、メンズカレッジはだんだんと浸透してきたと思う。講座をはあもに大学のようなイメージでとらえるのも大事かと思う。「よんでよんでのかい」のような読み聞かせ会は、コロナ禍で行く場所がない子育て中の保護者に改めてアプローチするため、新しいポップな名前にしてもいいと思う。「子どもカレッジ」や「絵本カレッジ」「絵本カフェ」などに変えると、もう少し若い世代にアプローチできるのではないか。また今後は裾野を広げることがテーマになると思う。DVやジェンダーは重たいテーマになるので、希望とか明るいイメージで発信できるといい。今の高校生はすごく優秀なので、「セブentyーンカレッジ」を作って、子どもたちが考えるジェンダーを動画にし、発信をするのはどうか。また高齢者はSNSやメディアが苦手だが、タブレットなどが使えるようになると役に立つことが多い。苦手意識の強い高齢者に高校生が動画の使い方を教えたり、ジェンダーについて一緒に考える機会があるとシニアの参加も増えるのではないか。子飼商店街では「ホコテン」という言葉を使って、若い方が動画作成をして発信している。若い方のビジュアル、感覚、発想を取り込むことが重要ではないか。また今回のGEジャーナルは大きさがとてもよい。配布方法にどのような工夫をしているのか知りたい。ウィメンズカレッジのOG会180名というつながりもとても素晴らしい。具体的にどのような支援を行っているのか知りたい。

(事務局 坂本)

OG会の支援について今は、年代も環境も違う人たちが上手くやっていくためのサポートに徹している。その中で核になる人たちが動き出していて、ホームページもできた。今後皆さんの意見を聞きながら活動も活発になっていくと思う。GEジャーナル2号はミモザフェスティバルができず、色々な人に啓発・広報することが難しかったため、若者にピンポイントに伝えるものができないかと考え、卒業式に配る冊子を企画した。市の男女共同参画課か

ら市の教育委員会に高校の卒業式での配布を依頼していただき、熊本市立の高校とビジネス専門学校、支援学校に加えて、出前講座を行ったルーテル高校や第二高校にも配布した。今後も卒業式に配ろうかと考えていたが、小野委員から入学式にとのこと意見（後述）があったので、次回以降どのように作り、配布していくか考えていきたい。

（那須委員）

R3 年度も多彩な取り組みを行うと聞くことができ、期待している。コロナ禍の中で女性にさまざまな困難があり、課題が顕著になっている。女性の自殺者が例年と比べると非常に増えている報告があるが、どういった原因があってどのような支援が必要なのか、行政と協力して取り組んでいただきたい。ZOOM を使って講座のオンライン化が進んでいるが、講座を受ける側は端末やネット環境が整っているのか。端末の貸出しや、ネット環境を整えるための助成を行うなどの取り組みを広げてもらいたい。坂口委員の提案にあった通り動画は分かりやすい。ラジオを収録する際に、様子を撮っておいて分かりやすくまとめた動画を流すのもいいのではないか。選択的夫婦別姓の問題は、今後女性が社会に参画していく上で、考えていかなければならない課題。多くの方が考える地盤を作っていく取り組みが必要だと思う。

（事務局 坂本）

選択的夫婦別姓の問題など社会的課題について、例えば講座で行うアンケートなどで意見を聞く機会があってもいいのかと思った。今後検討したい。

（北村委員）

男女共同参画会議の中でウィメンズカレッジの修了生が活躍されていると報告があった。一方、今年の 4 月に県内の各自治体が防災計画策定のための地方防災会議に女性の登用が少ないとの記事があった。はあもにいの防災出前講座の記事も一緒に載っていた。そのような実践を基に、市などと連携し、講師の方が防災会議に参加してはどうだろうか。本園でも 1 度、保護者対象に防災出前講座を行っていただいた。保護者からとても好評で、その時に頂いた防災ポイント BOOK は今も活用している。防災ポイント BOOK の中に書いてあることは、実際にそのような状況になった時に必要なことが網羅してある。防災ポイント BOOK を有効活用する意味でも、そういうこともできればいいのかと思う。

（阪本委員）

女性のスキルアップは社会において大事なこと。とても期待している。利用者アンケートでは男性の利用者が 23%と少ない。年齢では 60～70 代の割合が高く、ほとんどが女性である。宮村委員が言われたように、男性の講座を増やすことで男女共同参画の形になってくるのではないか。また女性起業家の育成システムがきちんとできていて、起業に繋がっていることはありがたい。ウィメンズカレッジの OG が 180 名もいるということに大きな期待を感じる。コロナ禍の中、これだけ多くの事業を行っておられるので、そのことを広めてもらいたい。商工会議所では祭りのときなど、招待客の接待は必ず女性会に依頼がくる。昔からの

慣例になっているのだが、誰もそれをおかしいと感じることがなかったのだろうか、改めて思う。そういった気づき、意識の改革が男女共同参画に繋がっていくのではないかと感じた。

(小野委員)

若年層への啓発について特に関心がある。GE ジャーナルを2種類作成されているが、特に高校生バージョンが素晴らしく熊日紙面でも紹介した。できれば市内すべての高校へ、入学式などに配ってほしい。これから生きていく上でどういったところに気を付ければいいのかを考える機会となる。デートDVのように自分の行動が相手を傷つけてしまうかもしれないといった気づきとなる。最後のページにさまざまな相談窓口の一覧が載っていることも素晴らしい。コロナで女性の自殺者や失職者が増加し、SOSを心の中に抱えている人がたくさんいる。高校の時にこれを読んで、少しでも頭の片隅に残っていれば、最後に頼る場所としてはあもにいを覚えていてくれればよいと思う。また若年層ということであれば、小学生、中学生向けの簡単な冊子ができないか。子どものうちに男女問わず、さまざまな気づきのきっかけになるのではないか。「よんでよんでのかい」に参加する幼児や成人以上の方へ向けた講座は充実しているようなので、ぜひ今後は若年層へ力を入れてほしい。

(事務局 坂本)

小学生、中学生向けの冊子については真剣に考えてみたい。例えば黒髪小学校など地域の学校の先生方との連携や、市の教育委員会に協力していただく形で何かできないか考えていきたい。

(本田委員)

県内の公立ホールの協議会があり、舞台やホールに関する内容の職員向け研修を行っている。どこのホールも男性も女性も勤めているので、男女共同参画の出前講座を行ってもらいと成果はあるのではないかと。ぜひ活動の場を広げていただきたい。

(事務局 坂本)

熊本市の男女共同参画課が基礎講座などの出前講座を行っている。そういった講座と棲み分けをしながら、私たちにできることがあれば、いつでも声をかけていただければと思う。また、いろいろな会館の方にはあもにいの機能を知ってもらい、参加いただくことも考えていきたい。

(広渡委員)

はあもにいが積極的に出前講座を行って、さまざまところで認められてきていることを嬉しく思う。本学にも優れた内容の出前講座を行ってもらっている。事業概要の防災講座の参加者感想に「講座を受ける前は男女共同参画と防災がどう繋がるのかと思っていたが、内容を聞いて非常に納得した」とある。防災講座を通して、男女共同参画を考える機会となっていることは、意味のあることだと思う。また、学生に対してキャリア形成支援の講座をお

願っている。保育コースは女子学生が8割～9割を占めているが、その中に数名男子学生がいる。一緒に講座に参加することによって、女性のキャリア形成を考える機会に繋がっている。熊本地震を経験した施設のはあもにいが行う防災講座は使命の一つではないかと思う。これからは、はあもにいの今後について考える時期ではないか。コロナ後はコロナ前には戻らない。大学も同じ。大きく変わる転換期にきている。コロナ禍の中で、学生から学ぶことも多かった。世代を超えて、若者と力を合わせて一緒にはあもにいを運営していくべきかと思う。新しい形になることを大きな希望を持って期待している。

(八幡委員)

第5次男女共同参画基本計画の中で、地域における男女共同参画センターの機能強化が打ち出されている。DX化によって今後ますます、熊本市に留まらない情報発信力がセンターの機能として求められてくる。そのことに期待をしたい。SDGsの視点もこれからの会館の在り方を考える上で非常に重要な視点となる。誰一人取り残さないという理念は男女共同参画の理念にも通じるものがあり、そのためにDX化を図っていく必要がある。はあもにいは交通の便が良いとは言えず、これまでアクセスできなかった方もYouTube等で情報を得ることができる可能性も出てくるかと思う。6月に育児休業法が改正になり、男性の育児休業の在り方が変わってくる。男性のライフ面を提案するような講座も、機能強化の面で求められる。社会的な変化の中でいかにリニューアルし、チャレンジしていくか期待している。

(事務局 坂本)

コロナ以降のことは、この時期にしっかり考えなければいけない。会館の老朽化もある。施設の運営をしながら外に出て行ったり、またDX化を進めていくことなどを、男女共同参画課に相談しながら進めていきたい。